

## ビオトープ

私たちは土木工学に生態学を取り入れて、いろいろな生物が棲める環境創りの研究や、生物の飼育実験を進めてきました。

那須の技術研究所には、ビオトープの試験フィールドがあります。ここでは、植生の遷移や、周辺の動物によって変化してゆく自然の様子を、長期的な視野で観察・研究し、そのノウハウを各地で活用しています。

例えば、夏の夜の風物詩ホタルは、幼虫が清流にしか生息できないために、今では稀しか見ることができません。

しかし、都市公園に作られている池などは、ちょっとした工夫を加えれば、ホタルをはじめとするかつて身近にいた動植物を、私たちのもとに呼び戻すことができます。

産卵場所となるコケの生えた土手、幼虫が食べるカワニナ、サナギになるための草むら、成虫が飛べる空間……。それらを考えてゆくと都市の中に再生されるべき水辺の風景が見えてきます。ホタルに棲みやすい空間は、他の生き物にも活動の場を提供します。



景観の美しさ、利用のしやすさ、安全性など、公園造りで要求される基本的な要素にも生態系と合わせて十分な配慮を行います。



(用語解説2)

### ビオトープ(Biotop)

ビオトープとは、生物(Bio)と場所(topo)を合成したドイツ語で、「生物の生息に適した場所」を意味し、植物・昆虫・小動物・鳥・魚などが棲めるように、造成したり復元した場所をいいます。

最近は壁面や屋上の緑化、せせらぎを中心にしたバイオガーデンの造成など、都市の中でもいろいろな方法が試みられているようです。

私たちは、人と自然が共存できる環境を目指し、ビオトープの研究や造成を行っています。